

## 2025年度 授業コード: 21103100

授業科目	*小児看護学演習				実務家教員担当科目	○					
単位	1	履修	必修	開講年次	3	開講時期	前期				
担当教員	樋口 由貴子/藤本 奈緒子/永野 英美										
授業概要	<p>小児看護学概論や小児看護方法論、小児分野の疾病学各論で学んだ知識を基に、健康問題をもった子どもや家族に対する看護援助について事例学習を通して看護展開する。また、安全で安楽な援助を提供するために必要な基本的看護技術についての知識を理解し技術を習得する。実務家教員として病院での小児看護経験のある教員が、小児に対する看護経験を踏まえ、具体的な例を挙げながら小児および家族に対する看護展開について授業する。</p> <p>この科目は、2回目以降は1回あたり2コマで実施する。</p>										
授業形態	対面授業		授業方法	講義、PBL、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション							
<b>学生が達成すべき行動目標</b>											
標準的 レベル	<p>目標 1. 健康障害をもった子どもや家族に対する看護援助について看護展開の思考を理解し、事例による看護展開をすることができる。(DP1-2, DP2-1, DP4-2)</p> <p>1) 事例の疾患が理解できる。</p> <p>2) 事例の全体像を捉えることができる。</p> <p>3) 事例の成長発達段階を踏まえた療養生活上の問題が抽出できる。</p> <p>4) 事例の子どもと家族への援助が考えられる。</p> <p>目標 2. 子どもに対する基本的な看護技術について手順と根拠、留意点について説明することができる。(DP1-2, DP2-1, DP4-2)</p>										
理想的 レベル	<p>目標 1 について、紙面上の事例を用いて看護過程を展開し、子どもの成長発達を踏まえ、子どもと家族を含めた個別性のある看護計画を立案し、説明できる。</p> <p>目標 2 について、子どもに対する基本的な看護技術について手順と根拠、留意点について説明することができ、状況に応じた応用を考察し説明することができる。</p>										
<b>評価方法・評価割合</b>											
評価方法		評価割合 (数値)			備考						
試験		20									
小テスト		10									
レポート		50									
発表 (口頭、プレゼンテーション)		20			グループワーク中の態度・参加度についても評価します。						
レポート外の提出物											
その他											
<b>カリキュラムマップ (該当 DP) ・ナンバリング</b>											
DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	NU21303J
<b>学習課題 (予習・復習)</b>										1 回の目安時間 (時間)	
予習: これまでの学習を見直し、個人ワークを効果的に進められるように準備しておく。										1	

復習：疾患・症状・治療について A4 用紙 1 枚にまとめる。（第 2 回までに提出）	
<b>授業計画</b>	
第 1 回	<p>テーマ：科目のオリエンテーションおよび健康障害をもった子どもの事例検討 1</p> <p>オリエンテーション後、事例紹介と今後の進め方について解説する。</p> <p>担当：樋口由貴子</p>
第 2 回	<p>テーマ：事例検討 2</p> <p>提示された事例について、自己学習した知識からアセスメントに必要な情報収集を行い、患児の状態の把握をする。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p>
第 3 回	<p>テーマ：子どものケアに必要な看護技術 1</p> <p>主に安心・安全な環境を調整する技術について解説する。</p> <p>担当：樋口由貴子</p>
第 4 回	<p>テーマ：子どものケアに必要な看護技術 2</p> <p>主に酸素化、検査などの援助について解説する。</p> <p>担当：樋口由貴子</p>
第 5 回	<p>テーマ：子どものケアに必要な看護技術 3</p> <p>主に計測とバイタルサインの測定の方法について解説する。</p> <p>担当：藤本奈緒子</p>
第 6 回	<p>テーマ：小児看護技術演習 1</p> <p>バイタルサインの測定、身体計測、救急蘇生法など小児看護に必要な技術を、子どものモデル人形等を使って実施する。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p> <p>第 6 回と第 7 回は連続して行う。</p>
第 7 回	<p>テーマ：小児看護技術演習 2</p> <p>バイタルサインの測定、身体計測、救急蘇生法など小児看護に必要な技術を、子どものモデル人形等を使って実施する。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p>
第 8 回	<p>テーマ：事例検討 3</p> <p>アセスメントを一部学生が発表後、解説をする。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p>
第 9 回	<p>テーマ：小子どものケアに必要な看護技術 3</p> <p>主に排泄、栄養などの技術について解説する。</p> <p>担当：永野英美</p>
第 10 回	<p>テーマ：事例検討 4</p> <p>グループでアセスメントを共有し、アセスメントから看護問題を抽出する。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p>
第 11 回	<p>テーマ：テーマ：事例検討 5</p> <p>事例の全体像を把握し、健康問題を導き出し、計画を立案する。計画には必ずプレパレーションを入れる。</p>

	担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美
第12回	<p>テーマ：事例検討6</p> <p>事例の看護計画を立て、プレパレーション発表会の準備・練習をする。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p> <p>第12回と第13回は連続して行う。</p>
第13回	<p>テーマ：事例検討7</p> <p>事例の看護計画を立て、プレパレーション発表会の準備・練習をする。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p>
第14回	<p>テーマ：事例検討の発表1</p> <p>看護計画の一部のプレパレーション場面を発表する。</p> <p>発表後はディスカッションする。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p> <p>第14回と第15回は連続して行う。</p>
第15回	<p>テーマ：事例検討の発表2</p> <p>看護計画の一部のプレパレーション場面を発表する。</p> <p>発表後はディスカッションする。</p> <p>まとめ</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p>
テキスト	<p>中野綾美、ナーシンググラフィカ 小児看護学1 小児の発達と看護、メディカ出版、2023.</p> <p>中野綾美、ナーシンググラフィカ 小児看護学2 小児看護技術、メディカ出版、2023.</p>
参考図書・教材 ／データ ベース・ 雑誌等の 紹介	<p>丸光恵他；小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第15版、医学書院、2025</p> <p>その他の参考図書については、授業中に適宜紹介します。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>小テストは採点後に返却、個人ワークはコメントをつけて返却します。</p>
学生へのメッセージ・コメント	<p>健康障害をもった子どもと家族を理解し看護過程を展開するには、既習の専門教育科目（看護を学ぶための基礎、看護実践の基本）を十分に理解しておく必要があります。振り返り学習しておいてください。</p> <p>演習に関しては事前学習を十分に行い、準備を万全にして演習に臨んで下さい。また前半は個人ワークを中心に進めるため、事前学習や復習をしっかりして授業に臨んでください。後半はグループワークを行う為、自分の意見や考えを準備し、グループワークに参加ください。この科目は、3年後期から開講する小児看護学実習に向けた基礎的な学びの総括として位置付けている科目ですので、疑問や不明な点などは、積極的に声を出してしっかり参加して学習を深めていってください。</p>

	課題提出についての詳細は、講義内で説明しますが、計画的に取り組み他の科目と両立できるようにしてください。
--	------------------------------------------------------